

# 献辞

前川功一先生は、平成19年5月に広島大学をご退職された。同時に、本学における研究・教育ならびに大学運営、さらには学界発展へのご功績がきわめて顕著であると認められ、名誉教授の称号を授与されている。広島大学教員としての定年は平成19年3月であった。われわれ広島大学経済学会でも、長年にわたる前川先生の学部および研究科に対するご貢献に深甚なる謝意を表し、ここにご退職記念論文集を刊行することとした。

前川先生は、昭和42年3月に広島大学政経学部をご卒業後、昭和44年3月、一橋大学大学院経済学研究科修士課程理論経済学及び統計学専攻を修了され、昭和44年4月、広島大学政経学部助手に就任された。以来、平成19年5月に至る38年間にわたり、政経学部、経済学部ならびに大学院社会科学研究所に勤務された。その間、幅広い学識と高い識見によって学生の教育・指導にあたられ、学界、教育界および社会に対して多くの有能な人材を送り出してこられた。とくに大学院教育における前川先生のご貢献は大きく、その指導を受けた多くの院生が、現在各界で活躍している。

この間、前川先生は、広島大学経済学部長（平成8年4月から平成13年5月まで）として、また大学院社会科学研究所科長として、学部・大学院の充実・発展に大きな寄与をされた。さらに、広島大学評議員、広島大学副学長（平成13年6月から平成15年5月まで）、国立大学法人広島大学理事・副学長（平成16年4月から平成19年5月まで）等々を歴任されて、全学の管理・運営に携わられ、広島大学の充実・発展に多大の貢献をされた。

ご研究面においては、計量経済学者として数多くの卓越した研究業績を挙げておられる。研究成果を、*Econometrica*、*Journal of Econometrics*、*Econometric Theory*など当該分野の最も権威ある国際学術雑誌に発表し、当該分野の発展に大きく貢献された。また、海外での研究活動としては、英国ロンドンスクールオブエコノミクスで在外研究を行ったほか、カナダ・ウエスタン・オンタリオ大学、英国リーズメトロポリタン大学において客員教授を務められた。計量経済学教育においても、計量経済学分野の教科書を共同出版することにより、後人の啓発に努めておられる。学界においては、*Econometric Society*、日本経済学会、日本統計学会、日本金融・証券計量・工学学会の会員・役員として活躍し、学界の発展・学術研究の促進に貢献された。また、*Econometric Theory*、日本経済学会誌、日本統計学会誌等の編集委員も務められた。

社会貢献においては、金融工学プロジェクト研究センター長として産学連携を推進した外、大学評価・学位授与機構経済系教育評価専門委員、日本学術振興会科学研究費委員、ひろぎん経済研究所理事などを務め、社会の発展に寄与された。

このように前川先生は、研究・教育・組織運営にわたるあらゆる分野において、常に真摯な態度で臨まれ、きわめて顕著な実績を残されてきた。今回のご退職は、経済学部および広島大学にとって誠に大きな痛手であるが、なんびとも如何ともしがたい。広島大学経済学会は、今後も前川先生に温かい目で見守っていただくことをお願いするとともに、ここに深甚なる謝意をもって本論文集を捧げ、先生の益々のご健勝とご活躍を祈念する次第である。

平成19年6月

広島大学経済学会長

富岡庄一